

三菱みらい育成財団

高等学校等が学校現場で実施する「心のエンジンを駆動させるプログラム」

教育プログラム名
佐世保西高ふるさと創生大作戦～佐世保と世界と未来を結ぶイノベーション人財育成～
教育プログラム概要
地域資源を活用した課題探究活動を通じて、地域の未来を見据えた提案や実践を行う。 1年・2年前期には探究的な手法を身に付けながらグループで地域課題研究を行い、校内外での成果発表やコンテストへの応募、ベトナム研修やイノベーションスクールネットワーク等グローバルな場で研究成果を発信する。また2年夏季の企業訪問で探究学習とキャリアの接続を図り、2年後期以降の文系・理系別の課題研究でそれまでのグループ研究の内容をより深化させる。
教育プログラムの特徴・特色
(ア)プログラム内容の特徴
(1) プログラム設定の背景：本校は長崎県北部の佐世保市にあり、西海国立公園に指定されている九十九島の豊かな海が存在している。また、日本最大級のテーマパークや世界遺産に認定されている場所もある観光都市であり、日本人だけでなく外国人観光客も非常に多い。一方で、人口減少が喫緊の課題である。 (2) プログラムの内容と特徴 協働性を発揮しながら以下の活動に取り組む。 ①探究的な地域課題研究 【内容】地域を理解し、そこでの課題を発見し、課題解決へむけて探究し、地域の未来を見据えた提案や実践を行う。また、校内外での発表会やコンテストへの応募及びベトナム研修旅行の交流会や本校が任意で加盟しているイノベーションスクールネットワークなどグローバルな場でも研究発表を行う。 【特徴】研究では、提案・実践まで取り組ませることで単なる調べ学習に陥ることを避け、また発表会等を通じて提案・実践を評価してもらうことで、自己肯定感を醸成する。また、課題探究や研究発表ではSDGsの17の目標を意識させる。 ②地域の自治体との連携や地域の企業への訪問（短期インターンシップ）： 【内容】自治体や地域で活躍する人々を招いた講演会や地域の企業を訪問することで様々な人々との関わり、自らのキャリアについて考える機会を設ける。 【特徴】研究内容と社会との関わりを意識することで、研究内容を深化させ、自分たちが生活する地域の課題を自分事と捉えさせ、学びに向かう主体性を育む。 ③文系・理系課題研究 【内容】理系では、大学や県の研究期間と連携してテーマ別の課題研究に取り組む。 文系については、地域課題研究の内容を個人で振り返り、まとめの作業を行う。
(3) 生徒の心のエンジンが駆動するポイント

- ①ミニ探究講座等を実施し、なぜ「学ぶ」のか、なぜ「地域課題研究」なのかを自分事として理解し、自らの学びに向かう主体性や課題探究への情熱を湧き立たせる。
- ②実際に生徒が地域に飛び出す「フィールドワーク」の実施により、生徒のワクワク感を高めるとともに、科学的かつ論理的に分析することで、今までと違う視点を持つことで、目の色が変わることが期待できる。
- ③フィールドワークを行いながら、企業や地方公共団体、大学と協働して活動する「グループワーク」により、生徒同士だけでなく他者と関わり合いの中で相乗効果生まれ、心のエンジンが一気に駆動することになる。
- ④「成果発表」、「コンテストへの応募」、「課題探究の深化」により、生徒の探究心の回転数が向上し、より深い学びが実践される。

(イ)プログラム目標と達成可能性

(1) 目標：本校における3年間を通して育てたい生徒像の実現及び佐世保と世界と未来をつなぐイノベティブ人財育成

①育成したい生徒像：本校の教育方針に掲げている「地域社会及び国際社会の一員としての自覚と感性を備えた人材」、つまり「グローバル人材」の育成である。また教育方針にそって、令和元年度には前職員の協議を経て、より具体的な育成したい生徒像を策定しており（別添1）の実現をこの活動を通じてはかっていく。

②佐世保と世界と未来をつなぐイノベティブな人財育成

本校は地域課題解決の実現を目指した「ふるさと創生大作戦」（別添2）に取り組んで2年が終了した。研究については、考察し提案するだけでなく、フィールドワークを取り入れて実践させ、行動することが未来を切り開くことにつながることを実感させてきた。コンテストにも積極的に応募し評価をいただいている（別添3）。

(2) 達成可能性

上記のようにこれまでの活動は外部からも高い評価をいただいている。達成可能性については、これまでの2年間の実績を踏まえ、かなり高いものであると確信している。またスケジュールはこれまで問題なく実施しており、活動をさらにブラッシュアップすることで、無理なく助成期間内に成果を上げることが期待できる。

(ウ)プログラムの独自性・先進性・卓越性

【独自性】 (1) ふるさと創生の実現のため、地方公共団体や地域企業と連携して、提案だけでなくコラボレーションや共同でプロジェクトを行うことにある。

(2) 理系課題研究における研究フィールドにある。地元の九十九島の海域は複雑な地形が生み出した潮の流れと島々から流れ出る成分により、数多くの魚介類が獲れ、養殖場所としても最適な漁場となっている。さらに、河口付近には干潟があり、絶滅危惧種のカブトガニなどが生息している。それらをフィールドとして探究活動を行う。

【先進性】 (1) 地域課題解決において改善策の提案だけでなく、地域の関係諸機関と連携して実際に解決するための改善策に取り組んでおり、高い先進性が認められる。

また大学等と連携した活動を密に行うことで、より先進性を追求することができる。
(2) 大学進学希望者がほとんどを占める公立高校で、本校のように全校生徒が探究活動に取り組む例は、全国的にまだ多くない。今回のプログラム助成を受けることで、探究活動のより一層の充実を図り、成果を発信していきたい。

【本プログラムの卓越性】

- (1) ベトナム研修での学校交流会で活動内容を英語により発表している。今後、インターネットを活用して海外との連携を一層充実していきたい。
- (2) 企業とコラボレーションした商品を開発し、販売するなど卓越性が高い。今後は、開発商品をさらに価値を高め、継続した販売を行い、より地域に貢献したい。

(エ)プログラム予算・経費計画の適性

プログラム予算として工夫した点は、大学や研究所等との連携を充実させた点とフィールドワークを多角的に実行する点である。大学等との連携では、高大連携が求められる中でより密度の高い連携を可能にしている。フィールドワークについては、課題設定の第一歩であり、生徒の心のエンジンが駆動し、学びが加速する効果が期待できる。

(オ)プログラムの社会的インパクト・波及度合い

終了後の定着については、小・中学校と連携して活動することにより、探究活動や地域への興味・関心を醸成させることができる。将来的には、本校で探究活動を経験することで、自らの進路を切り拓く原動力となる。また、予算についても商品開発により安定的な収益を得るとともに、企業等と連携する中で探究活動のスポンサーを開拓することで活動経費を捻出したい。地元に戻って就業や起業することにより地域に貢献することも想定されるが、国内外の様々な地域に貢献したいという新たな心のエンジンが駆動することが期待できる。